

(電子メール施行)  
農技 1105 号  
令和4年4月27日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和4年度病虫害発生予報第1号を發表します。

## 令和4年度病虫害発生予報 第1号

### 向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	苗立枯病	平年並	平年並
	ばか苗病	平年並	平年並
	ヒメトビウンカ	<b>やや多</b>	平年並
	斑点米カメムシ類	<b>やや多</b>	平年並
ムギ	赤さび病	平年並	やや少
	赤かび病	平年並	—
	うどんこ病	やや少	やや少
	アブラムシ類	平年並	やや少
タマネギ	細菌性病害	平年並	やや少
	べと病	<b>やや多</b>	平年並
	灰色腐敗病	平年並	やや少
	ネギアザミウマ	<b>やや多</b>	平年並
春キャベツ	黒腐病	やや少	少
	菌核病	平年並	やや少
	アブラムシ類	平年並	やや少
	コナガ	<b>やや多</b>	平年並
	モンシロチョウ	平年並	やや少
野菜共通	ハスモンヨトウ	平年並	平年並
	ヨトウガ	平年並	平年並
	ネキリムシ類	平年並	平年並
果樹共通	果樹カメムシ類	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>

\* 気象の概況

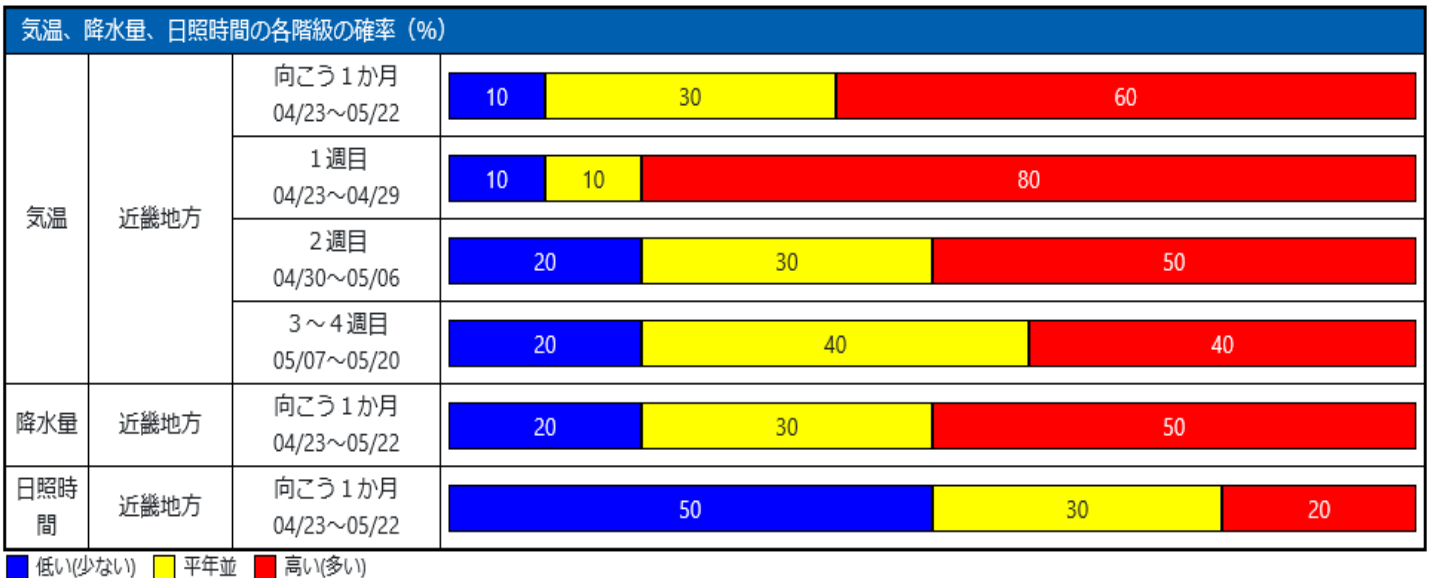
近畿地方 1か月予報

(4月23日から5月22日までの天候見通し)

令和4年4月21日  
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

近畿地方 1か月予報(04/23~05/22)		
2022年04月21日 14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項		期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。
向こう1か月 04/23~05/22	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率60%です。
	降水量	降水量は、多い確率50%です。
	日照時間	日照時間は、少ない確率50%です。
1週目 04/23~04/29	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 04/30~05/06	気温	2週目は、高い確率50%です。
3~4週目 05/07~05/20	気温	3~4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。



\* 発生概況及び防除対策上の留意点

## イネ

### 1 【苗立枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並**  
(2) 予報の根拠

ア 本病は昼夜温の較差が大きいと発生しやすいため、育苗ハウスの温度管理に注意する。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は高く、降水量は多くなると予想されているが、天候は周期的に変わるとされている。発生は平年並で推移すると考えられる。

### 2 【ばか苗病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並  
(2) 予報の根拠

ア 本病は種子伝染性病害であるため、種子消毒が不十分であると発生しやすい。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は多くなると予想されているが、天候は周期的に変わるとされている。発生は平年並で推移すると考えられる。

### 3 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多**  
(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の場内ムギ圃場(加西市)におけるすくい取り調査では、越冬世代成虫が5.5頭/10回振り(平年値2.6頭)であった。現地圃場では、発生は確認されていない。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高くなると予想されており、周辺のイネ科雑草から越冬世代虫のムギ圃場への飛び込みが進むとともに、次世代虫(第1世代虫)の増殖が進むことから、やや多い発生になると考えられる。

- (3) 防除上の留意点

ア 不耕起田等イネ科雑草が繁茂している圃場は、ヒメトビウンカの越冬場所になっているため、すき込みを早めを実施すること。

イ ムギで増殖したヒメトビウンカは、その後水田に移動してイネ縞葉枯病を引き起こす原因になる。前年秋の縞葉枯ウイルス保毒率は、病虫害防除所HP (<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>) に掲載している。また、今年度の第一世代虫の保毒率結果は、6月上旬に掲載予定。

#### 4 【斑点米カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月上中旬の加西市（農技センター内）では、アカスジカスミカメやミナミアオカメムシの誘殺が既に確認されている。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高くなると予想されており、これらの増殖に好適な条件となるため、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 草刈りや除草剤を利用して、水田周辺の雑草を管理し、水田に侵入するカメムシ類の密度を下げるよう努める。

イ 水田内で雑草が繁茂するとこれらに誘引されて、水田への侵入と増殖を助長するため、水田での雑草対策も適切に行うこと。

## ムギ

#### 1 【赤さび病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の場内圃場（加西市）の調査では、発病株率15.3%と例年よりやや早い発生であった。同時期の現地圃場では、発生株率5.0%（平年値29.2%）であった。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は多くなると予想されており、平年並の発生になると考えられる。

#### 2 【赤かび病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 場内圃場（加西市）のシロガネコムギの出穂期は4月12日であった。4月上旬の現地圃場及び場内圃場で発生は確認されていない。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は多くなると予想されており、今後の気温の上昇に伴い、平年並の発生になると考えられる。

#### 3 【うどんこ病】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の場内圃場及び現地圃場で発生は確認されていない。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は多くなると予想されており、発病が助長され、本病が見られるようになると考えられる。

#### 4 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並  
(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の場内圃場(加西市)でわずかに発生が確認されている。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高くなると予想されており、本種にとって増殖に好適な条件が続くことから、平年並の発生になると考えられる。

### タマネギ

#### 1 【細菌性病害】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並  
(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の場内圃場(加西市、南あわじ市)では発生は確認されていないが、同時期の現地圃場ではやや少ない発生を確認している。また、関係機関による調査でも発病株率7.3%(平年値12.0%)とやや少ない発生が確認されている。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は多くなると予想されていることから、平年並の発生になると考えられる。

#### 2 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量： **やや多**  
(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の場内圃場(加西市、南あわじ市)では発生は確認されていないが、同時期の関係機関による調査では発生圃場率2.2%(前年値 1.3%)の発生が確認されている。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は多くなると予想されていることから、気温の上昇と降雨により本病の発生が助長され、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 圃場の発生状況を十分観察し、地域の防除暦やタマネギべと病対策マニュアル(タマネギべと病防除技術開発コンソーシアム発行)を活用して、薬剤防除を徹底すること。

イ 薬剤散布にあたっては、タマネギの生育に応じた水量とし、散布ムラの無いように丁寧に行なうこと。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。

病害虫・雑草防除指導指針

(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

#### 3 【灰色腐敗病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並  
(2) 予報の根拠

- ア 4月上旬の場内圃場（加西市、南あわじ市）では発生は確認されていないが、同時期の現地圃場及び関係機関による調査ではやや少ない発生を確認している。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は多くなると予想されていることから、平年並の発生になると考えられる。

#### 4 【ネギアザミウマ】

- (1) 予報の内容 発生量： **やや多**
- (2) 予報の根拠

- ア 4月上旬の場内圃場(加西市)における成虫数は、116.0頭/25株(平年値88.0頭)とほぼ平年並の発生であり、同時期の場内圃場（南あわじ市）でも平年並の発生であった。4月中旬の現地圃場（中生・晩生）の寄生株率は28.8%で前年とほぼ同様であった。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高くなる予想されており、本種に好適な条件が続くことから、やや多い発生になると考えられる。

- (3) 防除上の留意点

ア 本種は、タマネギえそ条斑病の病原であるアイリス黄斑ウイルス（IYSV）を媒介することが知られている。今後、本種の活動が活発になることに伴って、IYSVを新たに獲得・媒介する機会が増え、タマネギえそ条斑病の多発につながる恐れがある。

- イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。

病害虫・雑草防除指導指針

(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

## 春キャベツ

### 1 【黒腐病】

- (1) 予報の内容 発生量： **やや少**
- (2) 予報の根拠

- ア 4月上旬の調査では発生は確認されなかった。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高くなると予想されており、本病の発生に助長的であることから、発生がみられるようになると考えられる。

### 2 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並**
- (2) 予報の根拠

- ア 3月上旬の場内圃場（南あわじ市）でわずかに発生が確認されている。また、3月下旬の現地圃場でも発病株率0.2%（前年値0.7%）、発生圃場率8.3%（同15.0%）とやや少ない発生が確認されている。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は多くなると予想されていることから、平年並の発生になると考えられる。

### 3 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
- (2) 予報の根拠

ア 4月上旬の場内圃場（南あわじ市）でわずかに発生が確認されている。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高くなると予想されており、気温の上昇に伴い、平年並の発生になると考えられる。

### 4 【コナガ】

- (1) 予報の内容 発生量： やや多
- (2) 予報の根拠

ア 4月上旬の場内圃場（南あわじ市）では、発生株数1.0頭/25株（前年値0.0頭）の発生が確認されている。フェロモントラップの4月1半旬～3半旬の合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で3.0頭（平年値5.7頭）、南あわじ市（淡路農技内）で61.0頭（同11.9頭）であった。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高くなると予想されており、気温の上昇に伴い、本種の増殖に好適な条件になることから、やや多い発生になると考えられる。

- (3) 防除上の留意点

ア ほ場内や周囲の雑草（特にアブラナ科）除去に努める。

イ 発生初期の防除に努め、同系統の薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。

病害虫・雑草防除指導指針

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

### 5 【モンシロチョウ】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
- (2) 予報の根拠

ア 4月の調査では幼虫の発生は認められていないが、圃場周辺では成虫の飛翔が観察されており、今後幼虫の発生が予想される。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高くなると予想されており、本種の増殖に好適な条件になると考えられる。

## 野菜共通

### 1 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
- (2) 予報の根拠

ア 加西市（農技センター内）に設置しているフェロモントラップの4月1半旬～3半旬までの合計誘殺数は、1.0頭（平年値0.4頭）であり、誘殺時期は例年よりやや早い。

イ 例年幼虫の発生がみられるのは夏以降であるが、早い時期からの発生に注意すること。

## 2 【ヨトウガ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並  
(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップの4月1半旬～3半旬の合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で4.0頭（平年値5.5頭）、南あわじ市（淡路農技内）で35.7頭（前年値85.0頭）であった。

イ 今後、越冬虫の羽化が進むに伴い、幼虫の発生がみられると考えられる。

## 3 【ネキリムシ類】（カブラヤガ・タマナヤガ）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並  
(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップの4月1半旬～3半旬の合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で52.0頭（平年値47.5頭）、南あわじ市（淡路農技内）で103.7頭（前年値149.3頭）であった。

イ これらの種は、ハスモンヨトウやヨトウガのような明瞭な発生消長を示さないが、現時点で成虫の発生が確認されていることから、今後幼虫の発生が予想される。加えて、雑草地では越冬した中・老齢幼虫が生息しているおそれがあり、近隣圃場もしくは耕うん直後の圃場での植栽は、被害を受けやすいので注意する。

## 果樹共通

### 1 【果樹カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多  
(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は表年（発生が多い年）に該当する。フェロモントラップの4月1半旬～3半旬の合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で8.0頭（表年平均0.1頭）、朝来市（北部農技内）でも6.0頭（前年値0.0頭）と現時点でやや多い誘殺が確認されている。

イ 今後の気温上昇に伴い、4月下旬～5月上旬に本格的な果樹園への飛来が起これると考えられる。定期的に園内を見回り、飛来状況の把握に努め、袋かけ等の防除対策を実施して、幼果の被害を受けないよう注意する。

\* この情報は、病虫害防除所ホームページに掲載  
(<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>)